

大草城(阿久比城, 阿古屋城, 阿古居城)(知多市大草字東屋敷)(大草公園)

大草城　　<時代>安土・桃山時代　　<地域>知多

<概要>

大草城は、織田信長の弟で後に茶人としても名をあげた織田長益（おだながます）またの名を織田有楽斎（おだうらくさい）が築城しようとし、途中で断念した幻の城である。大野台（現知多市南部と常滑市北部）を拝領していた長益は、伊勢湾の海上権確保のため、大草の地に築城を始めた。しかし、小牧・長久手の合戦後、摂津国（せつつのくに）に移封（いふう）されたため、大体の城の形が出来上がったところで放棄され、廃城となった。現在では本丸と二ノ丸を囲む堀と土塁が残っているが、保存状態がよいのは尾張藩初代藩主徳川義直（よしなお）、二代藩主光友（みつとも）に仕えた山澄淡路守英龍（やまずみあわじのかみひでたつ）が大草を給して城址の西南に屋敷を構えるなど、歴代の支配者が保存に努めたためといわれる。知多市では、その歴史的価値をとどめる城址を保存するため、大草公園として整備し、櫓（やぐら）を模した展望台と二の丸跡には散歩道をつくった。

<学習のポイント>

南に川を配し、小高い場所につくられた城の地形の様子を考え、城の役割について深く追究したい。また、織田有楽斎など当時活躍した文化人について調べ、桃山文化についてくわしく調べたい。

<見学のポイント>

堀や土塁が多く残されており、当時の面影がしのばれる。また、展望台から伊勢湾を眺めたい。
「愛知エースネット」（阿久比町教育委員会）による

